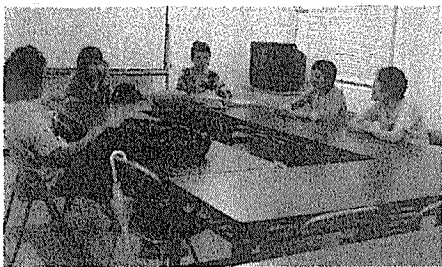


〒195-8585
東京都町田市金井町2160
和光大学G112(G棟1階)
www.wako.ac.jp/gender/

ジェンダーフリースペースは、G棟1階に昨年開設されて以来、シンポジウム、講演会、シ
ネマウィーク、メディア&トークなど、さまざまな催しを開いてきました。和光大学のジ
ェンダーフリーの発信基地として、ホームページのリニューアルに加えて、印刷メディアの準
備号の発行にこぎつけました。

楽しみながらジェンダーフリー

ジェンダーフリーは、二十世紀のキーワードの一つで、女性のエンパワメントや、性的マイノリティの権利回復をめざして、世



界の各地で、多様な取り組みがおこなわれています。ジェンダーの縛りにとらわれない自由な生き方を実践したり、それを当たり前のこととして受入れるジェンダーフリーの社会をつくり出すことが、私たちの願いです。そのためには、社会のジェンダー秩序に正面から立ち向かう努力も必要ですが、同時に遊び心で、ジェンダーの掟をずらしていくことも有効でしょう。

(人間関係学科)

世話人代表 井上輝子

岩間暁子(人間関係学科) 学生のみなさんがジェンダーフリースペースに関心を寄せるようになったきっかけとしては、実際に男女差別を経験したり、性別に関わる違和感をもったということが多くあります。このような体験を理解するためには、そこを出発点としながらも、視野を広げ、より大きな社会的文脈について知ることが必要です。

現代社会では、全般的には、女性より男性の方が、状況に置かれていると言えますが、他方で、女性の中にも、国籍や民族、社会階層(学歴や職業、収入など)といった違いによって選択肢やパワーには差が見られますし、また、全ての女性が全ての男性よりも常に劣位に置かれているわけではありませぬ。このような点も踏まえた上で、みなさんが自立的な判断、他者への理解、不公正なことには勇気を持って立ち向かう姿勢を身につけるささやかなお手伝いをこの空間ができるのであれば嬉しく思います。

奥須磨子(経済学科) 専門は日本近代経済史で、経済以外の歴史にも関心を持っています。明治民法と女性の権利・女性の職業・良妻賢母など、過去に女性が直面し、悩んできた問題は数多くあります。現代および将来の女性(男性)問題や男女間の問題を考える際にも、歴史的視点の必要な場合がきっとあるでしょう。そのような時、いつしよに勉強したり、考えたり出来たらと思っています。

世話人からのメッセージ (前編)

加藤三由紀(文学部) 専門は現代中国文学です。学生の頃中国へ留学し、日本の女性とは全く異なる常識でもって生きている中国都市部の女性たちには驚きました。あれから十数年、中国も日本も私も変わわり、常識のもろさを実感するこの頃です。世の常識は変わって、も子供や夫に縛られず溺れずにいつも何かを目指している中国の友人からは、今でも

「ガラスの天井」や「アフアマティフアクション」という言葉も聞いたことがありますか？ 実は「ジェンダー」とは何かよくわかっていない部分も多い私ですが、働き続ける上で、ジェンダーは一つのテーマとなってきました。簡単に、そしておだやかに、ジェンダーということを考えていただけたいなと考えてます。

三上豊(芸術学科) 芸術学科の教員です。私もジェンダーフリー・スペースという場が何をやる所か良く分かりませぬ。年に二回ぐらいいは酒が飲めそうなことはとてもいいことです。三〇年も前ですが、酒を飲むとセクハフツツクなことをやってた自分の姿が浮かんできます。たぶん、そのことを常に「良くないことだ」と思い出させる場が、このスペースではないかと思っています。

自分がジェンダー批評に関わったのはあくまでジョイス研究史の途上でのこと。社会学者ではない。クリステヴァの『セミオタイケ』からはフカニに遡らなければならず、『ポリログ』からは、ハフチンに遡らなければならなかった。英語圏の文学批評の領域では、たとえばジェイン・ギャロップやバーバラ・ジョンソンといった脱構築以後のフェミニズム批評も結構面白かった。で面白かったらいつのまにか和光大学にいて、しかも「フェミニズムジェンダー研究会」に入っていた。転任直後だったから右も左もわからなかった。

毎年批評や研究書が何冊も出版される、ジョイス産業の中において、批評史を自分なりに整理しておくことと思いついたのは6年ほど前のこと。一時は「フェミニスト・ジョイス」論が溢れていたけれど、最近ではむしろ「ナシヨナリスト・ジョイス」の実像が取り沙汰されている。(これってどういふこと?と思われた方は、毎年六月十六日に行われているジョイス学会へどうぞ。)

ジェンダー・フリー・スペース——このスペースは多分、全国のジェンダー関連の情報が集まる場になるのが望ましい。だから、自分にできることといえば、文学のいわゆる「ジェンダー批評」の書誌に貢献する程度だろうと思う。時間が許せばまとめてみたいところだが、いかんせん「文学」も「社会学」も、いまではさほどその境界を明確にしていない(たとえばスピヴァックの本は、「文学」の領域にはない)。結構厄介な作業だな、という思いもあって、まだぜんぜん手をつけていない。

(き)かわ しん・表現学部文学科

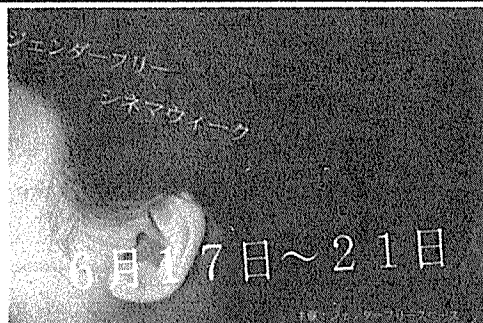
ジェンダーフリー

シネマウィーク開催

去る六月十七日(二十一日)の一週間、大学内の教室を利用してジェンダーフリーシネマウィークが行われました。少人数ながらも、とても熱心に鑑賞していました。

参加者のコメント(アンケートより抜粋)
 テンポのいい作品で楽しく良かった、
 ちよっぴり感動! / ジェンダーを考へるにはとてもいいものだったと思う /
 性役割を越えて自分を表現したり活動したり出来ることは素晴らしい

今後も気になる話題の作品をそろえ、シネマウィークを開催します。また、見たい作品も受け付けますので、ぜひお申し込み下さい。



<上映作品>

- 『ぼくのバラ色の人生』
- 『リトル・ダンサー』
- 『ウーマンラブウーマン』
- 『ガール・ファイト』
- 『ウォーターボーイズ』

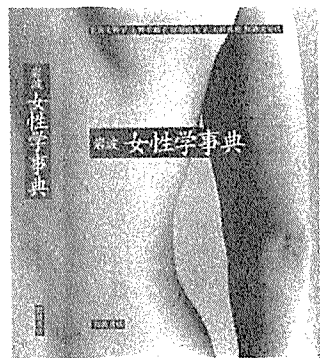
ジェンダーフリー・プレスで取りあげて欲しいこと。知りたいこと。学生のみなさんのご意見・ご要望をお待ちしています。ジェンダーフリースペース(編集担当:境)まで

本棚から

『岩波 女性学事典』

二〇〇二年六月
 岩波書店

四六〇〇円



日本初の女性学事典。法律制度から、心や身体、生活・慣習・習俗に至るまで、女性学に関することならなんでもわかる、

役に立つ事典で、読み物としても楽しめる。井上輝子、岩間暁子、児島恭子など和光の教員も執筆しているの、お薦めです。

*ジェンダーフリースペースでも閲覧できます!

イベント情報

詳細はチラシ・ポスターをご覧ください。

- ◆メディア&トーク◆
 - 第一回 七月十七日(水) 午後3時、植村洋『ビートルズが歌った女の子の子』
 - 第二回 十月二日(水) 午後3時、吉川信 映画『クライング ゲーム』
 - 第三回 十月三〇日(水) 午後3時、加藤三由紀 中国映画(タイトル未定)
 - 第四回 十一月二七日(水) 午後3時、杉本紀子 映画(タイトル未定)
- ◆ジェンダーフリーファッションショー◆
 - パフォーマンス&ディスカッション
 - 十月十八日(金) 午後より
 - 深町玲(フェミニニストパフォーマー)
 - モデルは本学学生が参加します。